



# 火災の原因を知って 予防しましょう

平成29年中の火災発生状況

問い合わせ 26・9124 とかち広域消防局予防課(西6南6、消防庁舎3階、☎)

## 1年で32件の火災が発生

平成29年に帯広市内で発生した火災は32件で、前年と比べて22件減少しました。(表1)

出火原因は1位のストーブをはじめ、たばこやマッチ・ライターなど、生活に身近なものが原因で火災が発生しています。(表2)

## 住宅用火災警報器の効果

過去5年間の住宅火災において、住宅用火災警報器を設置していない世帯では12人が亡くなっています。一方、設置している世帯では死者が出ていません。設置していない住宅は、命を守るため必ず設置しましょう。

表1 火災発生状況

	平成28年	平成29年	増減
火災件数(件)	54	32	▲22
建物火災	30	23	▲7
住宅	18	15	▲3
事業所など	12	8	▲4
車両火災	11	2	▲9
林野火災	0	0	0
その他火災	13	7	▲6
野火	5	2	▲3
工作物など	8	5	▲3
死者数(人)	3	2	▲1
負傷者数(人)	9	6	▲3

表2 主な出火原因

出火原因	件数
1位 ストーブ	6件
たばこ	3件
2位 火入れ*1	3件
マッチ・ライター	2件
3位 車の排気管*2	2件

\*1 火入れとは田畑などの枯れ草、雑草などを焼くこと。  
\*2 オイルや燃料が漏れて排気管に付着し出火。

## Check! 火災を防ぐ チェックポイント

実際にあった事例をもとに注意点をまとめたので、次の点を中心に注意しましょう。

- ストーブの近くに燃えやすい物を置かない。また、近くでスプレー缶などを使用しない。
- 就寝時、外出時はストーブの火を必ず消す。
- こんろを使用している時は、そばを離れない。
- 灰皿には水を入れ、寝たばこやポイ捨てを絶対にしない。
- 家の周りに燃えやすい物を置かない。(放火されないようにする)



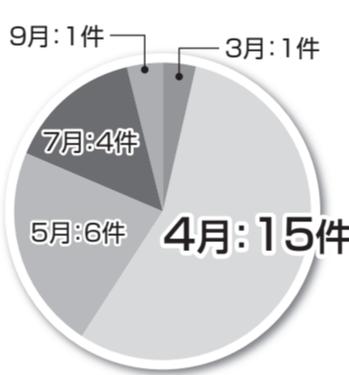
# 火の用心ことばを 形に習慣に

4月20日～30日 春の火災予防運動

問い合わせ 26・9131 帯広消防署指導課(西6南6、消防庁舎1階、☎)

雪解けが進むこの時期は空気が乾燥し、野火が発生しやすくなります(図)。火災が発生すると被害が大きくなるので、火の取り扱いには十分注意しましょう。

図 平成25～29年野火発生件数



4月20日～30日の期間中、こんろなどの状況を確認するため、消防職員や消防団員が高齢者や体の不自由な人の家を訪問します。このほか、子どもの火遊びをなくするため、女性消防団「桜華分団」が、「子どもの火遊び」をテーマに市内5カ所の幼稚園などの子どもたち向けに防火演劇を披露し、火の煙の恐ろしさを伝えます。

春の火災予防フェスティバル開催  
消火や煙などの体験コーナー、子ども用防火衣を着て写真撮影や住警レンジャーショーを行います。  
日時 4月22日(日)、10時～12時  
場所 イトーヨーカドー帯広店東側駐車場(稲田町南8)



防火衣で気分は消防士

## 不要なライターを回収します

春の火災予防運動期間中は、消防署や各出張所で不要なライターを回収します。

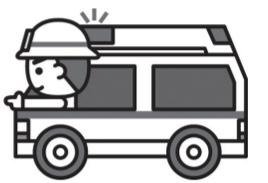
住宅用火災警報器の設置に関する訪問調査に伺います

住宅用火災警報器の設置把握と普及啓発のため、無作為に抽出した住宅を訪問し、玄関先で設置状況などをお聞きします。必ず制服を着用し、消防職員証を携帯しています。ご協力をお願いします。

## とりかえらからののお知らせ



住宅用火災警報器は10年を目安に交換をおすすめします



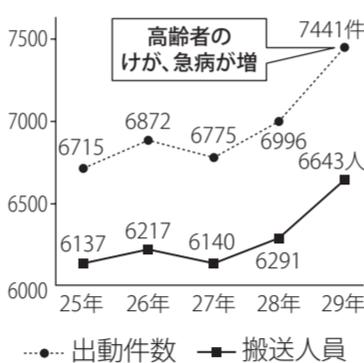
# 救急出動過去最多 半数以上は軽症者

平成29年中の救急出動状況

問い合わせ 26・91 帯広消防署救急課(西6南6、消防庁舎1階、☎)

平成29年に帯広消防署の救急車が出動した件数は7441件で、前年に比べて445件増加、搬送した人数も352人増加の6643人で、いずれも過去最多となりました(図1)。1日当たり約20件出動したことになります。

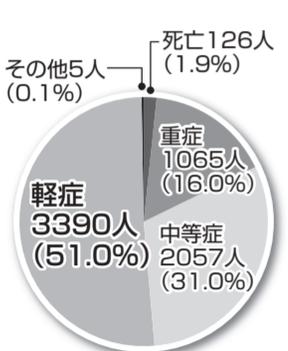
図1 出動件数・搬送人員



## 搬送者の半数以上が軽症

超高齢社会の進展などで救急需要が増加しています。今後さらなる救急出動件数の増加が予想されている中、平成29年に救急車で搬送した人のうち、51パーセントが入院を必要としない軽症でした(図2)

図2 搬送者の程度別割合



軽症の中には「病院までの交通手段がない」「どの医療機関を受診すれば良いかわからない」などの理由で、救急車を要請する事例もありました。

救急車や救急医療は限りがあります。緊急性のない出動が増える、本当に救急車を必要としている人への対応が遅れることがあります。大切な命を救うには、皆さんの理解と協力が必要です。

家庭内での事故防止に努め、症状が軽いうちに、早めに医療機関を受診するように心掛けましょう。

## こんなときは迷わず119番

反応や呼吸がない、顔色が悪く呼吸が弱い、突然の激しい頭痛や胸痛を訴えているなどの状態は、生命に危険がある可能性があります。このような場合は、ためらわずに119番通報してください。

休日や夜間などの医療機関が知りたいときは

帯広市急病テレホンセンター

☎ 26・1099

救急医療情報案内センター

☎ 0120・20・8699

携帯電話からは

☎ 011・221・8699